



超高速スピード2.5秒/枚を実現したアルテックの『MH250』。背景には上図のようなドラム方式4ヘッド技術がある



アルテックが参考出品した『Sticker Paper』。プリンターはシチズン製でヘッドとカッターが内蔵されている

高速2.5秒/枚実現

ミニラボ店のドライ化に向けて、銀座ミニラボからの切り換えをテーマに開発したのが、アルテック (ALTECH) の新昇華型プリンタ『MH250』。

製品名からも窺われるように、超高速2.5秒/枚(4×6サイズ)を実現した。セルフ機によるキオスク市場ではなく、高処理能力でミニラボ市場を狙うマシンという位置づけだ。

周知のように、サーマルヘッドでイ

ンクリボン(インクシート)に熱を加え、インクを昇華させ、ペーパーへ転写するのが昇華型だが、1ヘッドで出し入れするためにレジストレーション (registration) が不完全で各色のずれが生ずることがあるのに対し、新プリンタはドラムに4ヘッドを搭載することで、ミスレジストレーションを無くした。能力も4倍になるために高速化を達成している。

本体は W415×D550×H715 mm・50kgと小型軽量化が図られ、専用ペーパーは120m装填できる。1枚目の紙くずも5mm前後と少ないのも特徴だ。来春3月発売、単体で50万円を目指す。

なお、同社はこれまでプリンタはシチズン製、メディアはDNPを採用していたが、『MH250』についてはともに他社製品とし明らかにしていない。

このほか、ブースにはシチズン製プリンタによる付加価値提案として『Sticker Paper』を開発発表し展示していた。ブリクラのような糊付きシールだが、従来のものに比べて糊が強くなく、内蔵するカッターへの負担も軽い。



ker G2』。テの負担も軽い。海外メーカーでは、